

## 42 ドイツ留学中の森鷗外とザクセン軍

団——ザクセン州立中央文書館の資料から——

武 智 秀 夫

吉備高原医療リハビリテーションセンター

森鷗外はドイツ留学中、ライプチツヒに一八八四年一〇月二二日より八五年一〇月一日まで、ドレスデンにはそれから八六年三月七日まで滞在した。ライプチツヒではホフマン教授の下での衛生学研修が主な業務であったが、二回ザクセン軍の行事に参加している。

その一つは八五年五月一三日ドレスデンで行われた「負傷兵運搬演習」の見学である。この見学は八五年四月二九日ドレスデンから来たザクセン軍軍医団長ロート軍医監が鷗外に勧めたものであった。もう一つはザクセン軍秋期演習への参加である。演習は八五年八月二七日から九月一二日の間、ライプチツヒ東南の曠野で行われた。演習中のことは「獨逸日記」に詳しく書かれており、また弟篤次郎に「薩索尼軍団ニ従ヒ演習

ニ行クノ私記」を書き送っている。鷗外がドレスデンに移ったのは、ザクセン軍団の軍医講習会へ参加するが目的であった。

私は鷗外がこの演習に、またドレスデンでの軍医講習会に参加するために関連した公文書のコピーをザクセン州立中央文書館より入手したので紹介し、考察を加えることにしたい。

八五年八月六日付けで日本帝国公使青木周蔵がザクセン王国兵部卿騎兵大将ファブリス伯宛ての「森林太郎の演習参加への依頼」文書が出されている。

この文書は日本公使館→ザクセン王国外務省→兵部省→国王へと渡り、国王の裁決後同ルートを経て八月二九日鷗外の手へ渡った。

しかし鷗外はライプチツヒ駐屯の第一〇六連隊と密に連絡をとっていたので、八月二六日夜連隊を通じ国王の裁決を入手し、演習の始めから参加できた。

ドレスデンで行われたザクセン軍団の軍医講習会は当時ヨーロッパ随一といわれていた。八五年一〇月一日から翌年二月二七日までであった。これについて

も日本公使がザクセン王国兵部卿ファブリス伯に八年八月二二日付けで依頼状を出している。このときはザクセン王国外務省は介在せず、受け取ったファブリス伯は直接国王に申し出て、裁決が下りている。国王の裁決は秋期演習に参加中の鷗外に九月五日、日本公使館より送られてきた。

公使よりの依頼文の文案や手続きなどは、鷗外がドレスデンに「負傷兵運搬演習」を見学に行ったとき、ロートから懇切丁寧に指導を受けたものだと私は考えられている。

鷗外がベルリンの日本公使館に依頼状を頼んだのは、「負傷兵運搬演習」見学の二週間後のことだ。五月二七日の「獨逸日記」に「午前公使館に至る。青木公使の猶海牙<sup>ハイツ</sup>に滞するを聴く。」とあり、五月三〇日には「公使館に至る。公使は未だ帰らず。棚橋軍次を見る。乃ち諸事を委託す。……」とある。

鷗外はドレスデン滞在中の一八八六年元旦（祝賀大謁見）、一月一三日（第一回宮廷舞踏会）、一月三十一日（王妃陛下の新任将校謁見）、二月一〇日（第三回宮廷

舞踏会）と四回王宮に参内した。また一月一日兵部大臣ファブリス伯の夜会にも招待され出席した。このことは「獨逸日記」に詳しく書いてある。

しかし鷗外はこれらの名誉なことを家族に全く書き送っていない。ある鷗外研究家はそれを理由に、鷗外の王宮参内やファブリス伯の夜会出席がすべて虚構ではないかといっている。

私はこれら王宮の行事やファブリス伯の夜会の公文書を手取りしており、それらは「獨逸日記」の記述と全く一致する。ただ招待者の名簿は調べてもらったが残ってなかった。